



2026年5月21日

日本鉄道労働組合連合会

連合「医療・介護フェス2026」に参画

連合は5月16日、都内で「医療・介護フェス2026～安心と信頼の医療と介護 中央集会～」を開催し、各産別、地方連合会などから、オンラインを含め総勢約600名が参加した。JR連合からは今井孝治事務局長、住吉一家労働政策局長のほか、JR東海ユニオン、JR西労組、JR西日本ポシブル医科学労組から合計10名が参画した。



主催者を代表してあいさつした芳野友子会長は、「持続的な医療・介護サービスを提供するためには、安心して働き続けられる労働環境が不可欠」と主張し、医療・介護分野のみならず全ての人が自分事と捉えて取り組もうと呼びかけた。

続いて、「医療・介護現場における労働安全衛生・カスハラ対策」の講演を受けたのち、医療・介護現場を代表して4名の労働者が決意表明を行った。また、集会アピールを採択し、政府への要請に繋げる取り組みが確認された。



その後、医療・介護の分野に分かれて「令和8年度診療報酬改定」「賃上げ、人員確保、介護保険制度の課題」について学習した。

第29回医療連絡会を開催し、今後の取り組みを確認

翌5月17日には、第29回医療連絡会を開催し、向こう1年間の取り組みを確認した。連合が医療・福祉部門連絡会を通じて厚生労働省への要請行動に取り組んでいることから、連合の取り組みに積極的に関与していく方針を確認。本年10月に予定されている要請行動に向けて意見集約していく事を確認した。また、役員体制については、梅村昌人代表幹事（JR西労組）の継続を確認するとともに、新しく菅野雄太副代表幹事（JR東海ユニオン）を選出した。